

富山経協



ハエトリグサの捕虫葉（解説・16ページ）

CONTENTS

- 2 西部地区会員懇談会（報告）
- 2 講演会（要旨）「日本経済の現状と今後の展望」
- 4 調査報告
 - 2024年夏季賞与・一時金支給結果〈最終集計〉
- 5 人事労務管理 INFORMATION
- 6 Top Interview
 - ナガエ 長柄洋一社長
- 8 事業活動報告
- 8 北陸三県・長野県経営者協会役員協議会
- 9 委員会活動
- 10 富山県生活環境文化部との情報交換（講演要旨）
- 11 講座・セミナー
- 12 参加者NOTES
- 15 会員の動き
- 17 労働指標
- 18 おしらせ・事業予定

西部地区会員懇談会

7月26日(金)、ホテルニューオータニ高岡において125名(会場105名、講演会オンライン20名)が参加して、西部地区会員懇談会を開催した。

第1部の講演会では、株式会社マネネCEO/経済アナリストの森永康平氏が「日本経済の現状と今後の展望」と題して講演を行った。

(講演要旨は下記に掲載)

第2部の懇親会では、西部地区担当の大門副会長が「富山県経営者協会は企業と人にフォーカスして様々な経営課題に取り組むことで、地域企業が筋肉質となるための事業活動の下支えを行っている。本日は皆様方がお互いに情報交換と意見交換をして、明日からの経営の一助となること、そして皆様方のご多幸とご健勝を祈念する」と開会挨拶をした。来賓の新田知事より都市対抗野球での伏木海陸野球部の善戦を報告。「ウェルビーイングを高めるにはスポーツ観戦が有効で、これから始まるパリオリンピックで県内から10名が出場予定で、開催期間の17日間を大いに楽しんでいただきたい。富山県経営者協会の発展と会員企業のご繁栄を心からお祈りしたい」と挨拶があった。

続いて山下会長が、本日の森永先生のユニークな講演に対する感謝の気持ちを伝え、「県の発展を経済界と自治体が連携して進めていきたい」と述べて、乾杯の発声をした。

和やかな歓談が続く中、中締めとして八十島副会



大門副会長



新田知事



山下会長



八十島副会長

長から「国内では1年間に日本人の人口が86万人減り、一方で外国人の人口が33万人増え、その大部分が15歳から64歳の生産年齢人口に該当する。経営者協会では本年度の協会活動テーマを『人的資本経営による企業価値向上』として情報発信を行い、9月に富山地区、11月に東部地区の会員懇談会を予定しているので、皆様の参加をお願いしたい」と挨拶し、一本締めを行い散会した。

● 講演会(要旨)

日本経済の現状と今後の展望

株式会社マネネ CEO/経済アナリスト

森 永康平 氏

キーワードは『政策リスク』

本日の講演のキーワードは「政策リスク」。政策によって経営に影響が出るので、どのようなリスクがあるのかを、日本経済の話の中で紹介する。

I 日本経済の現状分析

日本の実質賃金はこの5月まで

マイナスが26か月続いている。1991年まで遡ってみても過去最長で、更新を続けている。実質賃金が2年以上マイナスが続くと、家計は節約するに決まっている。

2019年1月から2024年5月までの消費支出の推移を見ると、コロナの緊急事態宣言やその解除などのノイズを除去すると、ずっとマ

イナスになっている。日本のGDPの55%は消費でできていて、その消費がこんな状態では、日本の経済が調子いいとは言えない。

国内の経済には3つのプレーヤーがいて、1人目は家計。その家計が今、このような状況。

2人目のプレーヤーは企業。日経平均が4万円を超えたから、大

企業の賃上げ率が30年ぶりの高さになっているから、企業は調子がいいと言う人がいるが、国内数百万登録されている法人のうち日経平均をつくっているのはほんの225社。彼らが多くを労働者を雇っているかという、日本の労働者の7割は中小零細企業が雇っている。上場企業の一部の調子がよいからといって、日本企業が調子いいと表現するのは間違っている。

そこで、企業のサイズに関係なく見える指標として、倒産件数を見てみると、コロナが終わりかけたぐらいから一気に倒産が増え、今年5月に単月の倒産は1,000件を超えた。倒産は景気が悪いときに増え、景気がいいときはそんなに起きないのだが、コロナになった瞬間に倒産が減った。その訳はいわゆるゼロゼロ融資。そして今、返せと言われてる。

<政策リスク>

ここで、実際にあった政策リスクの話をする。コロナが始まった2020年の頭に、国会議員と有識者が集まる経済対策の話し合いに私も呼ばれた。国会議員側から出た案はゼロゼロ融資。私は粗利補償を提案した。売上げから原価を引いた粗利を補償、返さなくていいというもの。私は「ゼロゼロ融資をしたらコロナ後に倒産が爆発的に増えるからやめろ」と言った。そのとき国会議員側は「とりあえずゼロゼロ融資だけしておけば倒産件数は減る」と言った。

当時、私はコロナ後にどうなるかを考え、似たような世界というのはコロナの前。平日の夜はほぼ埋まっていたが、コロナ後にそこまで予定は入れないと決めた。周りの友人100人ぐらいにもアンケ

ートを取ると、100%戻すとは誰も言わなかった。この結果から、飲食業界のビジネスが70%ぐらいしか戻らないタイミングで返済期限がくれば潰れると予測した。しかし、私の意見は無視された。

これが政策リスクということ。誰でも分かるようなシナリオが見えていのに、目先の倒産だけ抑えればいいと言って、そちらの政策を取ってしまう。

2024年問題もそう。運送業界の経営者の生の声を聞くと、ドライバーは働きたいのに時間制限や距離制限をかけられ、働きづらくなり、収入が減り、離れていく。

そういう現場の声を聞かずに、有識者や官僚が政策を決める。机上の空論で決めて押しつける、これが日本の政策リスクだ。

II 長期的視点で見る日本経済

過去30年の165か国分の経済成長のデータを見ると、日本は下から6番目。経済が成熟している先進主要7か国の中でも一番下。日本の政策は間違っていたと言わざるをえない。

さらに問題は、人口が減り少子高齢化が進んでいる。地方に行くと「人が本当にいなくなった」と皆さん言う。こういう少子化対策や人口減少の政策を東京で決めるのも弊害だと思う。政策を議論するなら絶対に当事者を呼ぶべきだが、いまだに、子供がとっくの昔に独立しているような人たちが意味の分からない議論をしている。



III なぜ政策を誤り続けるのか?

政策をつくる官僚は優秀なエリートたちなのに、何故駄目な政策しかできないのか。その答えが分かった。

官僚は、国民から集めた税金を財源にして何かをするという発想だ。本来、国民から集めた税金が要らないのだったら償却する、予算が足りなければお金を刷るという手もあるのだが、日本の官僚は財源が必要になったら国民から取らなければいけないと思っている。選択肢は3つあるのに1つしかないと思い込んでいるから、政策の選択の幅が狭くなり、このタイミングで増税は無いだろうということにも変な政策を立ててしまう。

つまり、お金と税金の知識がない。皆さんは残念ながらその政策のリスクを経営者として負わされている。では、どうすればいいか。選挙のたびに知識がない議員を落とし、知識がある議員を中央に送り込む。民主主義である以上は、これしかない。

私たちはお金と税金の知識をつけて、よく分かっている人に投票する。これができない限りは日本経済はよくなる。言い方を変えれば、国民がまともになれば政治もまともになるので、全ては我々にかかっている。

2024年夏季賞与・一時金支給結果〈最終集計〉

県内

188社 単純平均541,003円、
前年比3.29%増 — 3年連続のプラス

富山経協会員企業を対象に実施した「2024年夏季賞与・一時金支給結果」（単純平均・最終集計）は、集計可能な188社の支給額平均が541,003円で、今回回答のあった188社の前年同期の支給額平均523,784円と比べると、金額で17,219円、率で3.29%増と、3年連続増加となった。

業種別では、製造業は前年同期比0.33%減少の512,629円、非製造業は同7.08%増加の571,900円となった。

製造業では12業種中4業種が減少し、鉄鋼・非鉄金属は12.99%、汎用・生産機械器具は9.15%の減少となった反面、繊維が16.04%、食料品・飲料が7.28%増加となった。

非製造業では10業種中7業種で増加し、卸・小売が14.26%、学術・専門・技術サービスが13.85%増加となった反面、宿泊・飲食・生活関連は9.95%、情報通信は0.82%の減少となった。

しかしながら、製造業、非製造業ともに、企業間のばらつきが見受けられた。

県内企業の2024年夏季賞与・一時金支給結果〔単純平均〕

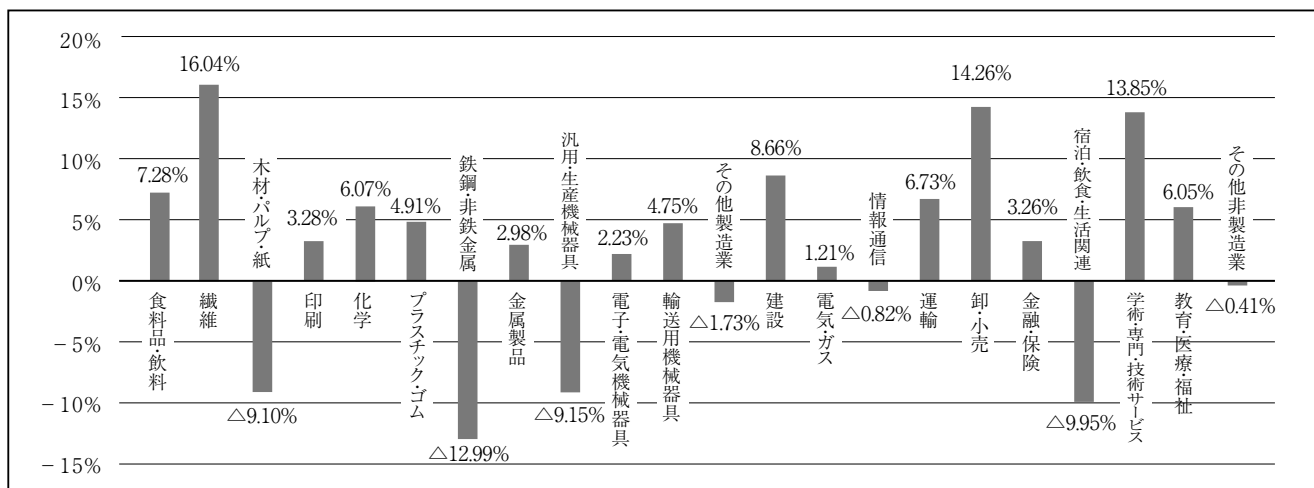
〔最終集計—2024年8月5日〕

（一社）富山県経営者協会

業種	社数(社)	2024年夏季支給額(円)	2023年夏季支給額(円)	前年同期比(%)
食料品・飲料	4	354,382	330,323	7.28%
繊維	3	306,221	263,897	16.04%
木材・パルプ・紙	5	383,874	422,299	△9.10%
印刷	4	355,419	344,146	3.28%
化学	18	648,172	611,056	6.07%
プラスチック・ゴム	7	416,908	397,395	4.91%
鉄鋼・非鉄金属	5	573,400	659,000	△12.99%
金属製品	12	465,494	452,018	2.98%
汎用・生産機械器具	18	542,937	597,635	△9.15%
電子・電気機械器具	10	520,468	509,119	2.23%
輸送用機械器具	6	550,918	525,942	4.75%
その他製造業	6	539,833	549,362	△1.73%
建設	15	636,717	585,972	8.66%
電気・ガス	2	607,280	599,998	1.21%
情報通信	11	570,500	575,242	△0.82%
運輸	13	385,091	360,825	6.73%
卸・小売	21	615,610	538,771	14.26%
金融・保険	5	677,881	656,454	3.26%
宿泊・飲食・生活関連	3	304,929	338,626	△9.95%
学術・専門・技術サービス	7	673,593	591,657	13.85%
教育・医療・福祉	5	652,456	615,254	6.05%
その他非製造業	8	526,819	528,967	△0.41%
総平均	188	541,003 (610,354)	523,784 (579,376)	3.29% (5.35%)
製造業平均	98	512,629 (595,843)	514,301 (566,104)	△0.33% (5.25%)
非製造業平均	90	571,900 (639,798)	534,110 (605,950)	7.08% (5.59%)

- (注) ① 調査対象455社のうち、集計可能な回答のあった188社の数値である。
 ② 「2023年夏季支給額」は、今回「2024年夏季支給額」の回答があった企業の数値である。
 ③ 平均欄の上段は一社当たりの単純平均、下段の()内は一人当たりの加重平均である。

業種別前年比増減率



2024年10月から 被保険者数が51人以上の企業等に

「パート・アルバイトの社会保険の加入要件」が拡大されます

2024年10月から、厚生年金保険の被保険者数が51人以上の企業等（現在は被保険者数101人以上の企業等）で働く以下の要件にすべて該当する短時間労働者の方は、社会保険の加入が義務化されます。

加入対象 (短時間労働者) の要件

- 週の所定労働時間が20時間以上
- 2カ月を超える雇用の見込がある
- 所定内賃金が月額8.8万円以上
- 学生ではない

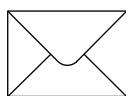
※「厚生年金保険の被保険者数が51人以上の企業等」とは、適用事業所の厚生年金保険の被保険者（短時間労働者は含まない、共済組合員を含む）の総数が1年のうち6月間以上51人以上となることを見込まれる企業等のこと

届出の案内・書類作成スケジュール

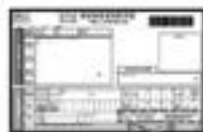
厚生年金保険の被保険者数が51人以上の企業等で、加入対象となる短時間労働者がいる場合は、「被保険者資格取得届」等の提出が必要です。新たに適用拡大の対象となることを見込まれる事業所に、2024年9月上旬までに「特定適用事業所該当事前のお知らせ」が送付される予定です。

通知でお知らせ

日本年金機構から
9月上旬までに送付



届出準備・作成



届出の提出

該当日の5日以内に届出を提出



社会保険労務士等の専門家がサポートします（専門家活用支援事業）

事業主・従業員のみなさまへ説明するために、ノウハウ豊かな社会保険労務士等の派遣を無料で受けることができます。

お申し込み ▶ まずは管轄の年金事務所（富山、高岡、魚津、砺波）にお電話ください。

詳しくは「適用拡大特設サイト」<https://www.mhlw.go.jp/tekiyoukakudai/index.html>をご覧ください。
(出典：厚生労働省、日本年金機構リーフレット)



「人事・労務出前相談室」のご案内 <初回無料>

会員企業の皆さまを対象とした、人事・労務に関する出前相談を、初回無料でお受けいたします。

- 担当 社会保険労務士 島崎裕美子 氏（島崎裕美子社会保険労務士事務所）
- 実施場所 会員企業事務所 ※富山経協事務所内でのご相談をご希望の方は申し出て下さい。
- 相談時間 1時間30分以内
- 料金 初回無料
- 申込方法 ①当協会ホームページトップページ「お知らせ」に掲載の「相談申込書」をダウンロード後、相談内容を記載頂き、FAXまたはEメール(roumu-soudan@toyama-keikyo.jp)でお申し込み下さい。
②希望相談日については、「申込日」の1カ月後から日付でお願いします。また、第三希望までご記入下さい。
- お問合せ先 (一社) 富山県経営者協会 (竹内・安田) TEL. 076-441-9588

これが欲しかったを カタチに ソーシャルグッドで社会貢献

株式会社ナガエ
代表取締役社長

長柄 洋一 氏



今年創業70年を迎えられます。これまでの歩みをお伺いします。

1954年にプレス加工を始め、工作機械や部品など様々なものを作ってきました。プレス金型も作っていた関係で1962年にガスメーターのカバーの受託製造を始めると、時代背景から需要が伸び、会社の成長の基となりました。

ガスメーターの仕様の変更に対応するため casting に乗り出し、1967

年に金型を使ったダイカスト casting での生産を開始しました。

その後、大量生産に適したダイカスト設備を活用して建材や美術工芸分野に進出します。高岡銅器の美術工芸品のダイカスト casting は業界初の試みでしたが、高度経済成長期の旺盛な需要に応えることができました。1975年には伝統的な高岡銅器の蠟型 casting の応用である「ロストワック casting」を開始し、

細かな絵柄の香炉や仏具などの製造も開始、現在のアート事業部に繋がる流れになっています。

現在、デザイン性の高いインテリア商品やアクセサリなどが目を引きます。2017年の米国トランプ大統領来日の際には錫製のプレスレットが夫人に贈られました。

バブルが崩壊して美術工芸品の需要が落ち込む中、ものづくりにデザインの力を取り入れる動きが出てきました。当社も2009年に「Nプロジェクト」を始動し、自社商品の開発、ブランドの立ち上げに取り組ましました。

県総合デザインセンターの協力も得ながら商品開発、販路開拓を進め、国内外で開かれる展示会やギフトショーに積極的に出展し、各国のバイヤーの反応を直接感じながら、ライフスタイル雑貨の「naft」、美術工芸分野の「銀雅堂」など、自社ブランドを育ててきました。2015年にはライフスタイルブランドを運営する新会社、(株)ナガエプリウス (NAGAE+) を設立しました。

どのようなブランドですか。

「循環」をテーマに、使い手であるお客様と共に価値を創造していくブランドです。潜在的ニーズを形にしていきます。例えば、ナガエプリウスではアルミ製のマッサージツールを販売しています。この企画の元になっているのは、「今後睡眠がキーワードになる」と言われたお客様との雑談でした。3年程前にリリースし、最近、売れ始めています。こうした取り組みは失敗も多いのですが、常にアンテナを張って、新たなリソースを掴んでいきたいと考えています。

現在の売上比率は、建築金物やガスメーター、自動車・輸送機器

をはじめとする工業製品を製造する「テクノ事業部」が85%、美術工芸品や銅像、雑貨などの「アート事業部」が15%です。

—「ナガエWAY」を浸透—

主軸となるダイカスト鑄造では幅広い業種の製品を手がけ、アート事業では潜在的ニーズを商品化されています。新領域を開拓される企業風土はどのように醸成されているのでしょうか。

元々、金型プレスからダイカストへと転換し、無かったら作ろうというマインドがありました。創業60周年の2014年に、社員が仕事をする上でのよりどころとなる「ナガエWAY」を策定しました。その頃、中堅社員を集めて「未来塾」という勉強会が毎月あり、そこで、それまで会社の経営理念や方針はあったが、行動指針やフィロソフィーみたいなものが無かったので、作ることにしました。みんな意見を出し合いながら、私は事務局長として携わりました。

「ナガエWAY」に盛り込まれた「『これが欲しかった!』を多様な発想でカタチにする」ことを、コーポレート・スローガンにしています。ニーズが顕在化している市場はレッドオーシャンになる可能性が高く、社会がまだ気付いていない、潜在的なニーズを商品化し

ていきたいと考えています。

スローガンを実際にどのように社内に浸透させているのでしょうか。

「ナガエWAY」は小冊子にして全社員に配布しています。10年前に未来塾で一緒になって策定したメンバーが今、幹部となっており、ベクトルが合っています。各部署のリーダーとの意思疎通はスムーズです。

最近の新たな取り組みは？

当社が強みとするアルミニウムのダイカスト製品は100%リサイクル材を使用しており、環境負荷低減に貢献することを前面にアピールしています。

脱プラ・減プラに注目が集まる中で、アルミ素材を多用した室内物干しを市場投入したり、インテリア商品の樹脂部分を竹に置き換えて、社会問題になっている放置竹林の活用につなげ、また、石の端材を活用してアロマストーンを商品化し、再生ガラスビンと再利用した錫の蓋に入れて販売するなどしています。「ソーシャルグッド」を打ち出して、世の中に良いものを広めていきます。

— 新たな商流を開拓 —

今後の展望をお聞かせください。

リーマンショック時にはガスメーター交換の需要があり、コロナ禍では自宅リフォームの増加に伴

って建材部門に助けられました。「選択と集中」ではなく、「両利きの経営」で新事業を進めていかないといけないと実感しています。

2022年にグローバルマーケティング部を設置しました。アート事業部の商品開発に加え、テクノ事業部でも脱プラの室内物干しや自在に動かせる手すりなど、オリジナル商品が増えてきました。セクション毎に商品開発、販路の拡大を考えるのではなく、マーケティングという大枠で横串を刺して新たな商流を開拓していきます。

またオリジナルブランドの商品開発を進めるとともに、小売り部門をしっかり立ち上げます。ものづくりで培った「目利き」を生かして確かな商品を仕入れ、優れた品物からものづくりにフィードバックもできると考えています。

これまでECサイトで自社商品を販売してきましたが、近日中にECの物流拠点を兼ねた実店舗をオープンする予定で、発信力を高めていきます。

座右の銘を教えてください。

「明日ありと思う心の仇桜、夜半に嵐の吹かぬものかは」。親鸞聖人の言葉です。タイミングを逃さずに実行すること、今意識していることです。

会社概要

株式会社ナガエ

創業：1954(昭和29)年11月
所在地：高岡市荒屋敷278番地
資本金：5,000万円
事業内容：ダイカスト鑄造、金型・ガス型・焼型・生型鑄造、プレス、板金加工、各種機械加工
従業員数：185名(2024年6月現在)
売上高：33億2,000万円(2024年5月期)
事業所：東京オフィス、上田オフィス
関連会社：NAGAE VIETNAM Ltd.、(株)ナガエブリュス
URL：<https://nagae.co.jp/>

略歴

1976年高岡市生まれ。富山県立大学大学院博士前期課程修了後、2000年(株)ナガエに入社。取締役製造部長、テクノ事業部長を経て、2013年常務、2016年7月から代表取締役社長。



事業活動報告

2024年6月11日～8月8日

(OL) = オンライン併用開催

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加人数
会	人事・労務政策委員会／教育委員会 合同「企業見学会・定例委員会」	人事・労務政策教育	6月14日(金)	(株)リッチェル	49名
	経営企画・IT委員会「講演会・定例委員会」	経営企画・IT	6月26日(水)	富山経協・研修室	8名
	環境委員会「県内企業見学会」	環境	7月9日(火)	(株)富山村田製作所	25名
	北陸三県・長野県経営者協会役員協議会		7月12日(金)～13日(土)	セーレン(株) TPF 事業所 福井石油備蓄基地 ほか	32名
	環境委員会「富山県との情報交換・定例委員会」	環境	7月16日(火)	富山経協・研修室 (OL)	64名
	品質管理委員会「定例委員会・見学会」	品質管理	7月24日(水)	立山科学グループ	30名
	西部地区会員懇談会		7月26日(金)	ホテルニューオータニ高岡 (OL)	125名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	7月29日(月)	富山電気ビル	13名
	ヒューマンエラー対策講座<実践編>	品質管理	6月11日(火)・12日(水)	富山経協・研修室	45名
	管理職基礎コース	教育	6月18日(火)・19日(水)	富山経協・研修室	43名
	労働法実務講座(第1回)	人事・労務政策	6月20日(木)	富山経協・研修室 (OL)	31名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	6月21日(金) 7月4日(木)・11日(木) 8月1日(木)	富山経協・研修室 タワー111ビル2階会議室1	24名
	職場リーダー入門コース【A日程】	教育	7月2日(火)・3日(水)	タワー111ビル3階スカイホール	79名
	職場リーダー入門コース【B日程】	教育	7月9日(火)・10日(水)	タワー111ビル4階ギャラリー	50名
	財務会計の基礎講座	教育	7月17日(水)	富山経協・研修室 (OL)	40名
	部課長実践講座	品質管理	7月18日(木)～20日(土)	インテック大山研修センター	25名
	なぜなぜ分析活用セミナー<基本コース>	品質管理	7月23日(火)	富山経協・研修室	45名
	会議の生産性を向上する ビジネスファシリテーター養成講座	教育	7月24日(水)	富山経協・研修室	36名
	なぜなぜ分析活用セミナー<基本コース>追加開催	品質管理	7月30日(火)	富山経協・研修室	33名
	現場の技術・技能伝承支援研修	品質管理	8月6日(火)	富山経協・研修室	16名
	なぜなぜ分析活用セミナー<ブラッシュアップコース>	品質管理	8月8日(木)	富山経協・研修室	33名

北陸三県・長野県経営者協会役員協議会

7月12日(金)～13日(土)、福井経協から9名、石川経協から6名、長野経協から10名、当協会から7名の各県役員が出席し、「北陸三県・長野県経営者協会役員協議会」を福井県で開催した。

初日12日(金)は、坂井市三国町テクノポート福井にある『セーレン(株) TPF 事業所』を訪問し、会社概要と事業内容の説明を受けた後、ビステックス(企画・製造・販売まで一貫した独自デジタルプロダクションシステム)技術を基にした「欲しいものを欲しいときに欲しいだけ」つくる、環境にやさしいモノづくりを視察した。次に同テクノポート福井内の『福井石油備蓄基地』を視察した後、ホテルリバージュアケボノにて懇親会を行った。



福井経協 光野会長の歓迎挨拶の後、同 有馬副会長の音頭で乾杯し、情報交流をしながら親交を深めた。次期開催県である石川経協 高松会長の中締めで閉会した。

翌日13日(土)は、「福井県立恐竜博物館」と大師山清大寺「越前大仏」を見学した。

委員会活動

総務交流委員会

■ 定例委員会

7月29日(月)、水谷委員長はじめ委員13名が出席して富山電気ビルディングで開催した。

水谷委員長挨拶後、事務局より2024年度事業の①調査活動の実施状況を報告、②ゴルフコンペ、県内企業見学会、ボウリング大会

の意見を委員から聞き、企業見学会は(一財)北陸電気保安協会の新研修施設で秋開催とすることで承認された。調査活動は、経営企画・IT委員会からの案をベースに承認された。その他として、9月13日の富山地区会員懇談会と9月14日のゴルフコンペの参加



依頼を行った。

人事・労務政策委員会

■ 定例委員会・企業見学会

6月14日(金)、㈱リッチェル本社R&Dセンターで開催した。

企業見学会は、大門委員長はじめ28名が参加。(株)リッチェル江本社長の挨拶、会社概要や人財育成等について説明後、昨年4月に竣工した新社屋内の、フリーアドレス制による職場環境と自社製品展

示スペースなどを見学した。

定例委員会は、委員長をはじめ委員26名が出席。委員長挨拶の後、事務局より委員交代等を報告し、2024年度事業活動計画(案)を審議した。委員会活動として、8月に経団連との情報交換会、12月に富山県協力の講演会、来年2月に人材確保に向けた情報交換会を開催



すること、また、その具体的内容について審議し、承認を得た。

教育委員会

■ 定例委員会・企業見学会

6月14日(金)、㈱リッチェル本社で開催した。

第1部の定例委員会は、同社R&Dセンターにて、品川委員長はじめ25名が参加した。委員長の挨拶の後、人事異動に伴う幹事及び委員の交代や新委員の紹介を行った。その後、2023年度2～3月及

び2024年度4～6月の講座・セミナーの実施報告をした。2024年度委員会活動について、次回の定例委員会は8月29日(木)に「人的資本としての人材マネジメント実践講座」と併せて開催することを確認し、2024年度研究部会メンバーが決定したことを報告した。

第2部の企業見学会は人事・労



務政策委員会と合同で、49名が参加して開催した。(同上)

品質管理委員会

■ 定例委員会・企業見学会

7月24日(水)、谷川委員長はじめ委員30名が出席して、立山科学グループで開催した。

定例委員会に先立ち、企業見学会を開催した。会社紹介に続き、「品質は命」を社是にグループ一丸となって様々な取り組みを進める中で、DXへの取り組み、品質への取り組みについて説明を聞き

た。その後、立山科学本部工場を見学し、意見交換を活発に行った。

定例委員会では、幹事・交代委員、新委員の紹介の後、2024年度の委員会活動計画について報告し、定例委員会は9月、12月、2月に開催する。また、会報誌「join♡T」の来年3月の発行に向けて編集部会を開催していくことと、県外企業見学研修会は10月17日



(木)～18日(金)に1泊2日で福井県の㈱アイシン福井と日華化学(株)を見学することを報告した。

環境委員会

■ 富山県生活環境文化部との 情報交換・定例委員会

7月16日(火)、定例委員会に合わせ富山経協・研修室で開催した。

第1部の「富山県生活環境文化部との情報交換」は、(一社)富山県機電工業会の環境委員会と共催で、両団体委員の来場(30名)に加え、オンラインLive配信(34名)も行い、計64名が参加した。

富山県から知事政策局成長戦略室カーボンニュートラル推進課係

長 南茂英気氏、生活環境文化部環境政策課地球環境係主任 鳥山康成氏、同廃棄物対策係技師 齊藤悠悟氏の3人を招き、3テーマ(要旨は下記掲載)について説明を頂き、参加者は質疑応答を含め活発な情報交換を行った。

第2部の定例委員会は、小田委員長はじめ20名が出席し、委員長挨拶の後、事務局より副委員長・委員交代の紹介と2024年度事業計画について説明した。9月の定例



委員会は、新たに「委員相互の情報交換」を併催すること、10～11月の県外企業見学会はBCP・BCM等の災害対策の先進企業で調整中であることなどを報告した。

県内企業のカーボン ニュートラル実現にむけて

富山県 知事政策局 成長戦略室
カーボンニュートラル推進課 係長 南茂 英気

「カーボンニュートラル」の実現は既に国際公約として世界の共通基準となっており、特に産業界への社会からの強い要請により、投資・技術開発の競争が激化している。国では、脱炭素分野での新たな需要や市場の創出により、産業競争力を強化するための支援のほか、排出量取引など早期に取り組むほど将来負担が軽くなるよう制度が検討されている。

このような中、県内企業が国内外で持続的にビジネスを行っていくためには、脱炭素への計画的な対応が急務である。特に県の基幹産業である製造業においては、2030年に向けサプライチェーン全体で、排出量の削減に取り組む段階となっており、今後、さらに排出抑制に関する要請等の加速が見込まれる。

県・市町村では、中小企業向けに、排出量の見える化から省エネ/再エネ設備等の導入支援を実施しているが、経営者の皆様にも、脱炭素と企業成長の両立に向け、積極的に情報収集を行い、計画的に取り組んでいただきたい。

とやまカーボンニュートラルポータル



再生エネルギー・熱利用の導入促進 (補助制度・事例紹介)

富山県 生活環境文化部 環境政策課
地球環境係 主任 鳥山 康成

太陽光発電は雪国富山には不向きとの誤解もあるが、実は年間発電電力量は東京周辺と同程度である。冬期間は発電量が減るが、3～7月はむしろ東京周辺よりも多く発電している。

また、FIT制度による売電単価の下落により、発電した電気を売電するよりも自家消費が有利となってきている。例えば、太陽光発電を行う昼間に、余剰分を蓄電池に貯め、夜間に使うという方法がある。

そこで、県と公益財団法人とやま環境財団では、温室効果ガス排出量の2030年度目標の達成に向けて、県民・事業者を対象に、再生可能エネルギー導入経費の一部を支援している(太陽光発電・蓄電池:最大60万円、地下水熱利用設備:最大150万円)。申請受付期間は今年11月29日まで。この機会に、ぜひ活用のご検討をお願いしたい。

再生可能エネルギー導入
促進補助金(富山県)



プラスチック資源循環の 促進について

富山県 生活環境文化部 環境政策課
廃棄物対策係 技師 齊藤 悠悟

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が2022年4月に施行された。この法律は、プラスチック使用製品の設計・製造から排出、処理に至るまでの各段階に関わるあらゆる主体に対し、プラスチックの資源循環等に係る取組みに努めるよう求めている。とりわけプラスチック使用製品廃棄物の排出事業者には、同じ製品の長期間の使用、再使用・再利用しやすい製品の使用などの排出抑制や、リサイクルに向けた取組みを求めている。

一方で、排出時の性状やコストなど様々な課題があるため、リサイクルが十分に進んでいない。こうしたことから、県では、リサイクルへの転換を検討する事業者への支援や、情報共有の場の提供のため、排出事業者・リサイクル業者・プラスチック原料を活用した製品の製造事業者のマッチングサイト「Re+とやま(リプラスとやま)」を構築した。サイトでは、これらの事業者を簡易に検索できるようになっているので、積極的に活用していただきたい。

リプラスとやま



■ 県内企業見学会

7月9日(火)、谷内副委員長はじめ25名が参加し、(株)富山村田製作所で開催した。

初めに同社 舟木社長挨拶の後、会社概要並びに環境への取り組みの説明を頂き、風力発電施設、防災倉庫、廃棄物自動ラック倉庫、マイクロ水力発電施設、アルカリ廃液処理施設を見学した。

ムラタグループ全体では事業活動に使用する電力を2050年までに再生可能エネルギー100%にすることを目指しており、同社では太陽光パネルの設置だけではなく、

風力発電の設置や工場内の冷却水の落差を利用したマイクロ水力発電の設置に取り組んでいた。さらに、自社クリーンルームの電力使用量を生産ピーク時の一定基準から生産状況に応じて調整する制御システムを開発し、省エネを進めていた。

また、廃棄物削減の取り組みでは、生産活動で発生する廃棄物を自動ラック倉庫に収納し、廃棄物の分別スペースを確保することでより細かく分別し、再資源化をしていた。アルカリ廃液処理施設では、自社で排出するアルカリ廃液



に加え、ムラタグループの他工場からも廃液を受け入れて処理していた。

最後の質疑応答で情報交換を活発に行い、日頃から環境経営に携わっている参加者にとって非常に有意義な見学会であった。

経営企画・IT委員会

■ 定例委員会

6月26日(水)、萩中委員長はじめ8名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

第一部は、(一社)中部産業連盟理事・社会貢献事業部長の杉藤里美氏を講師に、「人的資本経営と女性活躍・女性リーダーの育て方」と題して講演会を開催した。

第二部の定例委員会は、萩中委員長の挨拶の後、事務局より2024年度事業活動状況について報告した。審議事項については、企業と従業員のウェルビーイング創出事業(県との共催セミナー)のテーマは「DX・テレワーク推進コース」に、経営課題調査(第1回目)のテーマは「人的資本経



営に関する取り組み状況」に決まった。

講座・セミナー

■ 管理職基礎コース

6月18日(火)・19日(水)、43名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタント樋口伸亨氏が、①管理者の重要性と役割、②業績向上のマネジメント、③部下育成のマネジメントについて具体的事例を交えて解説し、グループディスカッションで活発に議論を

交わした。特に部下の育成については、目標管理や人事考課の目的と仕組みを確認するとともに、動画を用いて部下指導のあり方や部下とのコミュニケーションを検討した。

2日間の学びの中から得た自分の課題を7月～10月の4カ月間自社内に持ち帰って実践し、次回10月18日(金)にグループで振り返り、好事例を発表する。また、組



織力強化のマネジメント、変革と推進のリーダーシップについても学ぶ予定である。

■部課長実践講座

7月18日(木)～20日(土)の2泊3日で25名が参加し、インテック大山研修センターで開催した。

本講座は経営幹部の候補者である部課長を対象に、経営目標を達成するため自らの役割認識に立ち、必要な問題点の発見・改善方法について実践的に学ぶことを目的としており、今年度で45回目の開催となった。

1日目はCSポート(株)代表取締役社長 町野利道氏から「問題の発見・解決と方針管理」と題して、問題の発見は「あるべき姿」を外部から持ってくることで、問題の解決

は解決できるサイズに分解し連続で行うこと、方針管理は目標達成のためのプロセスに分解することなどを学んだ。M&P研究所代表 棚邊一雄氏からは「激動の時代に部課長は何をなすべきか」と題して、①俯瞰する力、②モノ・人の流れをみる力、③部下を導く力、④人と人のつながりについて、企業事例を交えて学んだ。特別講演として、ロバスト経営研究所所長 飴久晴氏から「部課長に望むこと」と題して、先人の知恵(心に響く文言)と自らの経営者としての経験談からヒューマンスキル(人間力)を磨くことの重要性を学んだ。



2日目以降は本講座のメインであるグループディスカッションを重点的に行い、「自部門の目標を達成するための部課長の役割」をメインテーマとし、異業種のメンバーで部課長としての問題点を共有化し、その問題解決までのストーリー展開を、講師・世話人の指導を受けてまとめ上げた。



参加者NOTES

「第45回部課長実践講座」を受講して

株式会社ウーケ
生産部 生産課 課長 木下 剛志



当社では2026年増設ライン量産稼働にむけて、失敗を恐れず更なる挑戦ができる職場環境づくり、社内組織の体制強化を進めています。また、経営基本方針に「美味しさ」「品質=安全」「使いやすさ」を企業理念とし、お客様から信頼され選択される企業を目指し顧客ニーズに応えられる商品の製造提供を実現するため、全社一丸となり日々取り組んでいます。

CSポート(株)代表取締役社長 町野利通先生の講義では、品質が良くなると変わらない事TQMをきちんと行う大切さ、方針管理、QCサークル活動、町野先生による成功体験、失敗からの学びについて聞くことができました。

M&P研究所代表 棚邊一雄先生の講義では、日本の労働生産性に関する現状と何をすべきかをご教授いただいた中で「木こりと

旅人の話」「よい流れをつくるトヨタの考え方の要点」「モノ・人の流れを見る4つの視点」が印象に残り、職場へ戻り講義の中でもあった「魚の目」「コウモリの目」で新たな発見、改善に生かしていきます。

ロバスト経営研究所所長 飴久晴先生の講義では、「人生航路で出会った百の箴言」から真摯な語りでご教授いただき、著書の冒頭にある質問「あなたは何のために生きてますか」が心に深くささり考えさせられました。

先生方の講義はどれもこれまでの経験された重みがあり、自分自身を見つめ直すきっかけとなり即実践しようと思いました。

グループディスカッションでは、異業種で集まったチームで意見交換、活発な討議など普段の職務では味わうことのない貴重な経験であり、改めてコミュニケーション

の必要性やQC的な考え方を実践する事で最良の結論を導き出すプロセスを再認識する良い機会をいただきました。チームは会社での立場や年代も近かったこともあり、職場での悩みや各社の取り組みなど本音での話も新鮮な経験であり、自社へ持ち帰り活用したいと思います。GD後での懇親会ではチームの絆にとらわれず交流があり本講座ならではの魅力がありました。

最終日、質問コーナーでは町野先生と棚邊先生が参加者全員の質問すべてに対し、ひとりひとりに真摯なご回答をいただきました。

本講座3日間のカリキュラムで参加前は不安なことがありましたが、講師の先生、世話人の荒屋様より楽しく進めていきたいと思います。言葉のとおりチームメンバーとコミュニケーションをし、より良い人間関係を築き、目標に向けて協力する大切さを学ぶことができました。今回の経験を活かし、自分の役割を通じて、チームと組織全体の成長に貢献し、社会に対しても積極的な影響を与えられるよう努めていきたいと思っています。

■ 職場リーダー入門コース

7月2日(火)・3日(水)のA日程に79名が参加してタワー 111ビル3階スカイホールで、7月9日(火)・10日(水)のB日程には50名が参加してタワー 111ビル4階ギャラリーで開催した。

(一社)日本産業訓練協会主幹講師 府川亮一MTPインストラクターの指導により、企業目標を達成するための「職場の活性化」と「態度能力向上」に力点を置いたプログラムに沿って、監督者の重要な役割である「目標達成に向け部門の

マネジメントを日々行うとともに、部下の能力を最大限に引き出して育成し、業績にむすびつけていく」ために必要なマネジメントの4つの側面(問題解決、日常業務管理、部下育成、信頼関係形成)について、講義に加え、事例研究や意見交換などを行いながら学んだ。

また、県内役職者による「企業の実例に学ぶ」講演会では、A日程の1日目には、三菱ケミカル(株)企画管理部企画管理グループマネジャーの河内博之氏が「心理的安全性の高い職場の実現」と題して、



B日程の1日目には、三協立山(株)総務人事統括室人事部人材開発課長の山森千恵氏が「リーダーについて」と題して講演した。

受講者は2日間を通して、管理監督者としての取り組み方や、部下との関わり方について学んだ。



参加者NOTES

「職場リーダー入門コース」を受講して

丸福石油産業株式会社
米島店 SS事業部係長

立野 一貴



今年5月より新たな現場で業務を遂行することになり、会社からの指示で今回、受講することとなりました。

まず初めに感銘を受けた言葉が「目標を失った職場は衰退の一途をたどる」でした。職場の同僚たち、部下たちを同じベクトルに向け一丸となり引っ張っていかねばいけぬ立場の人間が、目標も決められないままいる場合ではないと強く思いました。また、別々のベクトルに個々の人たちが目標を立てているのを、同じ方向に修正させていきつつ、やる気が

出るような言葉選びも大事です。仕事を部下に任せる場合の言葉一つ取っても「これは本来の仕事に影響がないだろうから頼むよ」ではなく、なぜその仕事をその人に頼むのか、「本来の仕事ではない」などでは仕事の重要度を著しく下げたしまい、頼まれた人のやる気を削いでしまうような言葉を絶対に使うべきではないとのこと学び、今一度、人に仕事を頼む時の言葉を考えさせられました。

一番印象深かったのは「傾聴(けいちょう)」という普段聞きなれない言葉でした。まず自分が上司と

して部下からの報告を受けるとき、必ず作業などをやめてしっかりと耳を傾ける。そして、もし悪い報告であってもまずは報告してくれた部下を労う。「報告ありがとう」と。そこから問題点の指摘、予防につながるということです。これを、作業しながら報告を聞き、駄目だったことに対して怒鳴り散らす、人格を否定などは、次は部下からの報告は来ない。また報告をゆがめられてしまう問題点ともなるということです。

この講座を受け、職場ですぐ実践していこうと意識が変わり、職場全体で目標を考え、部下の声にもしっかりと耳を傾け、意見を汲んでいこうと強く思いました。職場をより良い環境にし、全員が意見を出し合える職場、リーダーになっていこうと思いました。

共通

■ ヒューマンエラー対策講座

<実践編>

6月11日(火)・12日(水)の2日間で45名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部 主席経営コンサルタント矢島浩明氏は「人はエラーをするもの」であ

ることから、日常的な活動を通じて意識を高めることが大事であるとし、ヒューマンエラーの分類と再発防止対策について講義した。

また、ケーススタディでは3つのテーマについてグループ演習を行い、業種も立場も違う受講者たちが、共通のテーマで互いに気づ



き、学び合うことで理解を深めた。

■会計の基礎講座

会計から見た稼ぐ力と伸ばす工夫

7月17日(水)、富山経協・研修室に26名、オンライン14名の計40名が参加して開催した。

講師は(株)フォーワン代表取締役の羽田野正博氏と、同取締役の羽田野泰氏。貸借対照表や損益計算

書、キャッシュフロー計算書など、財務会計の基礎を整理し、さらに管理会計、中でも損益分岐点分析を中心とした利益計画の立て方について具体的な事例を交えて学習した。予算管理と原価管理・直接原価計算の考え方や活用方法についても理解を深め、最後に会計思



考の活かし方を改めて確認した。

■なぜなぜ分析活用セミナー

＜基本コース＞

7月23日(火)に45名、7月30日(火)に33名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本セミナーは、はじめて「なぜなぜ分析」を学ぶ人やこれから展開しようとしている若手社員を対象に、真因の追及・対策が効果的な解決につながる「なぜなぜ分析」を学んで身につけ、受講後に自職場で実践・展開できることを狙い

としている。

講師の(一社)中部産業連盟執行理事・主席コンサルタント 山口郁陸氏は、「なぜなぜ分析」は進める前さばきが重要であるとした上で、テーマと事象の明確化や分析対象の絞り込みなど展開前のポイントを解説した。さらに、簡潔な表現にする、憶測が入らない表現にする、因果関係が成立しているか確認するなど、展開する上でのポイントを説明した。最後に受講



者が共通認識できる身近な事例を用いて、講義で学んだ内容を活かしながら、チェックシートを用いてグループ演習で展開方法を学んだ。

■会議の生産性を向上するビジネス・ファシリテーター養成講座

7月24日(水)、36名が参加して富山経協・研修室にて開催した。

本研修は、会議におけるファシリテーションのスキルとマインドを理解し、自社の会議やプロジェクトの進行役として役割を果たせる人材の育成を狙いとしている。

講師の寺沢俊哉(公財)日本生産

性本部主席経営コンサルタントは、ロールプレイ実習を用いて①「対話の基本」のスキル、②会議を企画する「しこみ」、会議を進行する「さばき」のポイントを実践的に伝え、③わが社の会議の見直しについて、具体的に解説した。また、オンラインでの会議についての具体的な事例やレゴを用いた自由なアイデアについても触れ、グルー



プごとに活発な実習を行った。最後に実際の事例を学び、会議について見直した。

労務管理

■労働法実務講座(第1回)

6月20日(木)、「ハラスメント問題への対応と使用者の留意点—カスタマーハラスメントを含めて」をテーマに、31名(会場16名、オンライン15名)が参加して開催した。

講師に第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士を招き、従来からセクハラ、パワハラを中心に企業内トラブルとなる事例は後を断た

ず、法的紛争となることも珍しくない。近年ではマタハラ、さらにはカスハラといったハラスメントが問題となっている。従業員からこうした各種ハラスメントについて訴え、相談があった時に、使用者としての的確に対応するため理解しておくべき事項や留意点について、裁判例や具体的ケースを取り上げながら分かり易く解説



した。受講者からは、「理解を深めることができた」など、全般的に好評な講座であった。

生産管理

■ 現場の技術・技能伝承支援研修

8月6日(火)、ものづくり企業の管理・監督者16名が参加し、富山経協・研修室で開講した。来年2月21日(金)まで合宿研修2回を含む延べ18日間の日程で実施する。

この研修は、監督者としての資質や指導力を強化し、現場の技術・技能の可視化や人材育成方法、専門知識などを座学で習得するとともに、その内容を受講者の所属企業の製造現場を教室とした「現場実習」で実践することにより、監督者にふさわしい知識・技能・態度を総合的に身に付け、効果的に

技能伝承を進めることで職場定着を図ることを目指している。

主任講師はM&P研究所代表 棚邊一雄氏とM&P研究所とやま所長 竹村稔氏が担当し、監督者の役割、V S M (モノと情報の流れ図) の手法、QC的な考え方と問題解決の進め方、I Eの概要と実践活動、作業の標準化と作業要領書への落とし込み等について、講義とグループワーク等を通して「現場実習」に活かせる知識・技能を学ぶ。

開講日の8月6日(火)は受講者



16名が自己紹介を行った後、棚邊講師より概論として「ものづくりの基本」について講義があった。その後、「リーダーに期待される役割」についてグループ演習を行い、リーダーの使命である「部分最適」から「全体最適」への考え方や、「良い流れ」をつくる重要性について理解を深めた。

会員の動き

(50音順)(敬称略)

■ 代表者の変更 (窓口代表者)

あいの風とやま鉄道株式会社

代表取締役社長 伍嶋二美男 (前: 日吉敏幸)

株式会社竹中工務店 富山営業所

営業所長 石黒 長志 (前: 海谷 博)

戸田建設株式会社富山営業所

総営業所長 富士崎一雄 (前: 北村正敏)

とやま生活協同組合

代表理事 理事長 寺岡富美夫 (前: 小泉謙二)

株式会社パワー・アンド・IT

代表取締役社長 川端 光春 (前: 米屋敏樹)

富士フィルムマニュファクチャリング株式会社富山事業所

事業所長 植松 健二 (前: 藤倉大介)

ブリーズベイオペレーション3号株式会社ホテルグランテラス富山

総支配人 湯上 均 (前: 益田貴司)

株式会社フルテック

代表取締役社長 古村 崇 (前: 古村昂一)

北電産業株式会社

代表取締役社長 長 高英 (前: 高林幸裕)

北陸電気工業株式会社

代表取締役社長 下坂 立正 (前: 多田守男)

一般財団法人北陸電気保安協会

理事長 江田 明孝 (前: 須河元信)

一般財団法人北陸予防医学協会

理事長 永田 義毅 (前: 永田義邦)

株式会社ホライズン・ホテルズ 富山ホテル事業所

(ANAクラウンプラザホテル富山)

総支配人 森川 忍 (前: 玉置滋憲)

株式会社MINAMI

代表取締役社長 伊東 順一 (前: 南 和彦)

株式会社山田写真製版所

代表取締役社長 山田 康智 (前: 山田秀夫)

■ 役職位の変更 (窓口代表者)

春日温泉観光開発株式会社

代表取締役副社長 総支配人 小西 弘晃
(前: 取締役副社長 総支配人)

コーセル株式会社

相談役 谷川 正人 (前: 取締役会長)

株式会社タカギセイコー

相談役 八十島清吉 (前: 取締役相談役)

中越パルプ工業株式会社

代表取締役社長 福本 亮治 (前: 代表取締役副社長)

富山信用金庫

会長 山地 清 (前: 理事長)

日本曹達株式会社 生産本部高岡工場

執行役員高岡工場長 瀬下 敦寛 (前: 執行役員生産本部工場長)

富士フィルム富山化学株式会社

取締役 専務執行役員 生産統括本部長、事業戦略企画部管掌
三善 隆広 (前: 取締役 常務執行役員 生産統括本部長 兼 富山第一工場長)

株式会社富士薬品 生産事業本部

取締役 執行役員 生産事業本部長 本 拓也
(前: 執行役員 生産事業本部長)

■ 社名の変更

日本曹達株式会社 生産本部高岡工場 (前: 日本曹達株式会社 高岡工場)

■ 所在地変更

株式会社日本オープンシステムズ

富山市牛島町9番5号 Dタワー富山7F
(前: 富山市上本町3-16 上本町ビル7F)



表紙の花
ハエトリグサ

(富山県中央植物園 園長 中田政司)

葉を閉じる仕組み

植物園では夏休みに子ども向けの企画として食虫植物を展示しています。中でも一番人気のあるのがハエトリグサ、別名ハエジゴクです。


ハエトリグサの葉は二枚貝のような造りになっていて、縁にはまつ毛のような櫛状のとげがあります。内面には感覚毛という短い毛が片側に3本ずつ生えていて、1本に2回続けて、あるいは2本に同時に1回触ると、0.5秒のスピードで葉を閉じてしまいます。この時、葉の縁のとげは、檻のように虫を閉じ込めるのに役立ちます。

虫が捕まると葉は虫を押さえつけるように包み込み、10日ほどかけてゆっくり虫の内部を消化し、養分として吸収します。

モウセンゴケと同じ仲間

ハエトリグサの故郷はアメリカ合衆国東部温

帯の湿地帯で、冬季は休眠します。意外なことに食虫植物モウセンゴケと同じモウセンゴケ科に属し、虫を捕らえて栄養源にするという事では共通していますが、モウセンゴケのような粘着式の捕虫葉と、ハエトリグサのような罌式の捕虫葉とが進化の過程でどのように分かれて生じたのか、全く不思議としか言いようがありません。

虫を捕らえ損ねた葉はしばらくすると元どおりに開きますが、捕虫には大きなエネルギーを使うため、3、4回で葉は黒くなって枯れてしまいます。最近は園芸店でもハエトリグサが販売されており、栽培も比較的簡単ですが、面白がって葉を何度も閉じさせていると、株全体が枯れてしまうので注意が必要です。  虫を捕まえた葉▶

人事部門の皆さまへ

**退職されるシニア従業員の方へ、
「キャリア人材バンク」の登録をお勧めください。**

企業で長く貢献されてきたシニア従業員の方が60歳以上で退職するにあたり、「キャリア人材バンク」に登録されるようご案内ください。

「キャリア人材バンク」では、シニアの方の貴重な能力・経験を求める企業や、多様な働き方ができる職種をご提案し、再就職につなげます。

利用料

無料

<キャリア人材バンクに登録できる方>

60歳以上の在職者で雇用契約期間満了後^(※)に再就職を希望する方

(※) 定年、継続雇用終了、有期雇用契約期間満了により離職する場合

▶ 詳しくはこちらまでお問合せください



公益財団法人

産業雇用安定センター 富山事務所

〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10階

TEL 076-442-6900

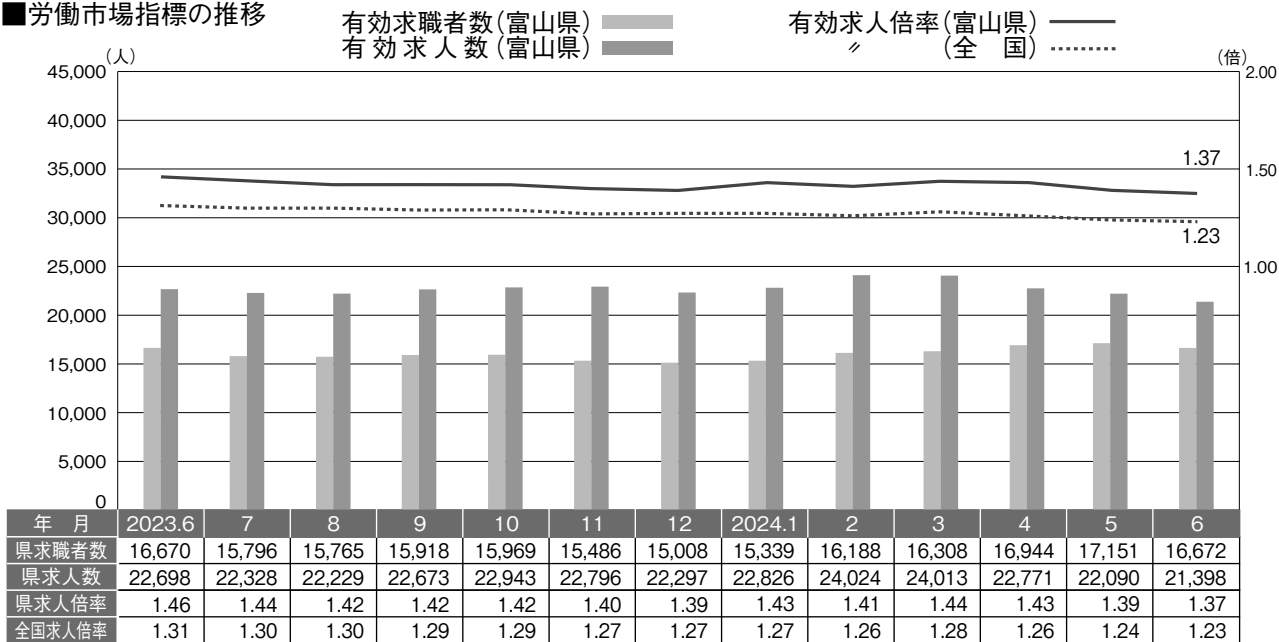
ご利用時間/9:00~17:00
(土・日・祝日は休み)

きっとみつかる いい人、いい仕事



労働指標

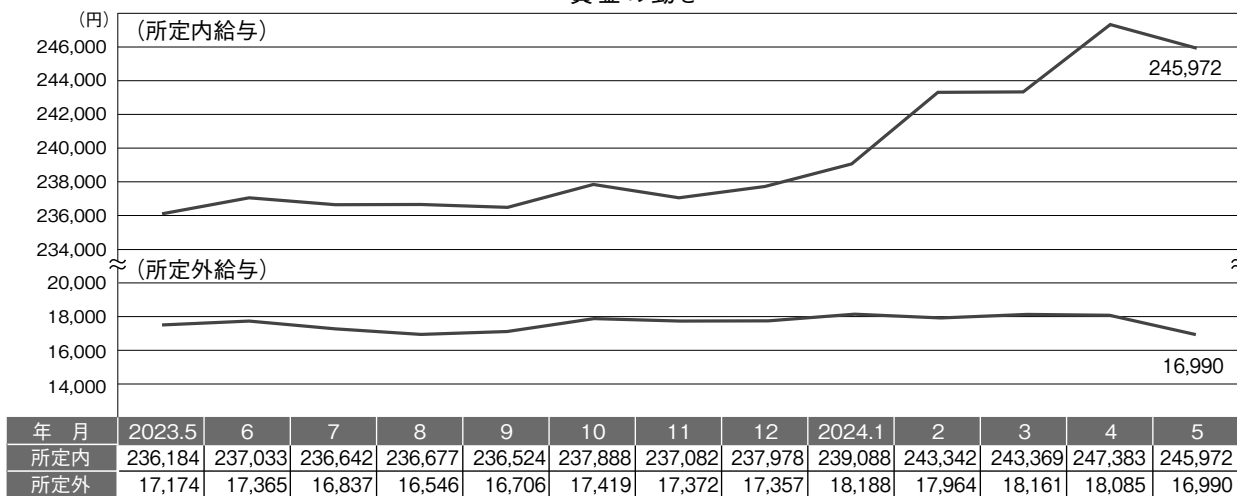
労働市場指標の推移



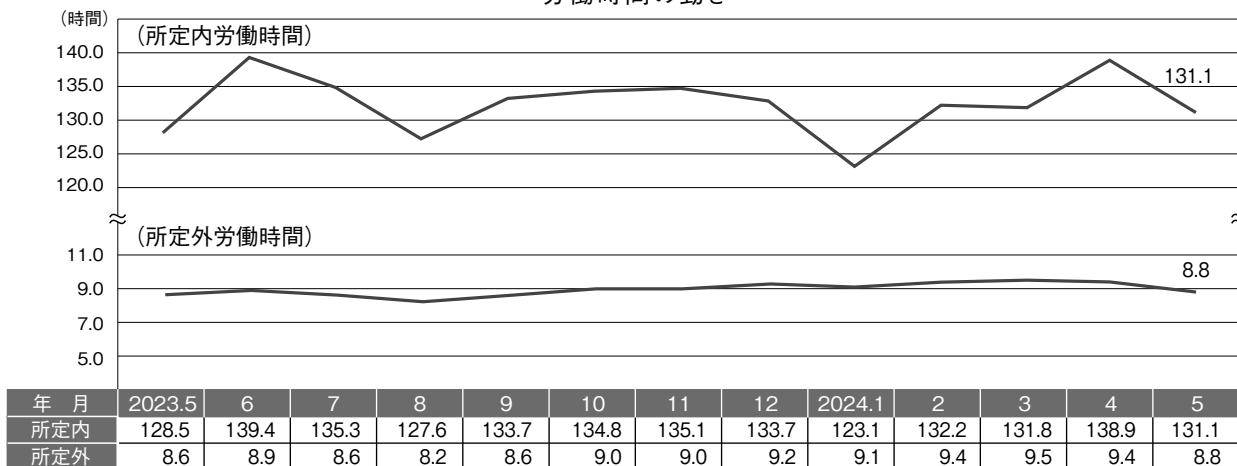
出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html
 注) 2023年12月以前の有効求人倍率の数値は新季節指数により改定されています。

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

9月13日(金) 富山地区会員懇談会

場 所：ホテルグランテラス富山 (富山市桜橋通り2番28号 電話(076)431-2211)

16:00~17:30 講演会 <4階 瑞雲>

テーマ 「人口減少社会を考える -未来への責任-」

講 師 内閣官房参与 山崎 史郎 氏

17:40~19:10 懇親会 <3階 薫風の間>

事業予定

2024年 8月16日~10月15日

詳しくはホームページ(<https://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

OL = オンライン併用開催

	開催日	時間	事業名	委員会名	場 所
議	8月23日(金)	15:30~17:20	人事・労務政策委員会「講演会・定例委員会」	人事・労務政策	富山電気ビル
	8月29日(木)	14:30~17:15	教育委員会「勉強会・定例委員会」	教 育	富山経協・研修室 OL
	9月13日(金)	15:20~15:50	理事会		ホテルグランテラス富山
	9月13日(金)	16:00~19:10	富山地区会員懇談会 <small>上記おしらせ参照</small>		ホテルグランテラス富山
	9月20日(金)	14:30~17:45	品質管理委員会「定例委員会・事例発表会・GD」	品質管理	タワー111ビル3階スカイホール
	9月25日(水)	15:00~17:30	経営企画・IT委員会「セミナー・定例委員会」	経営企画・IT	タワー111ビル2階会議室1
	9月27日(金)	15:00~17:10	環境委員会「定例委員会・GD」	環 境	富山経協・研修室
	9月30日(月)	16:00~17:00	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	富山電気ビル
会員交流	9月14日(土)	7:59~	富山経協ゴルフコンペ	総務交流	呉羽カントリークラブ
講 座 ・ セ ミ ナ ー	8月20日(火)	9:30~16:30	人事・労務管理セミナー(第2回)	人事・労務政策	富山経協・研修室
	8月21日(水)	9:30~16:30	女性社員スキルアップセミナー	教 育	富山経協・研修室
	8月22日(木) 9月 5日(木)・19日(木) 10月 3日(木)	9:00~17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室
	8月27日(火) 9月17日(火)・18日(水)・24日(火) 10月 1日(火)・15日(火)	9:30~17:00	現場の技術・技能伝承支援研修	品質管理	富山経協・研修室 とやま自遊館 富岩運河環水公園
	9月 3日(火)・4日(水)	9:30~16:30	ISO14001内部監査員養成講座	環 境	富山経協・研修室
	9月 6日(金)	9:30~16:30	IE手法による生産現場の改善セミナー	品質管理	富山経協・研修室 OL
	9月10日(火)	13:30~16:00	労働法実務講座<第2回>	人事・労務政策	富山経協・研修室 OL
	9月18日(水)	9:30~16:30	新入社員フォローアップ研修【A日程】	教 育	タワー111ビル4階ギャラリー
	9月19日(木)	9:30~16:30	新入社員フォローアップ研修【B日程】	教 育	タワー111ビル4階ギャラリー
	9月25日(水)・26日(木)	9:30~16:30	自部門戦略立案研修	教 育	富山経協・研修室
	10月 2日(水)	13:30~16:00	労務管理実務講座	人事・労務政策	富山経協・研修室 OL
	10月 4日(金)	13:30~16:30	改善セミナー<基礎編>	教 育	富山経協・研修室 OL
	10月 8日(火)・9日(水)	9:30~16:30	職場リーダー実践コース	教 育	富山経協・研修室
	10月10日(木)	14:00~17:30	キャリア&ライフデザインセミナー		富山経協・研修室
10月11日(金)	9:30~16:30	ヒューマンエラー未然防止セミナー	品質管理	富山経協・研修室	

「富山経協」vol.883

2024年(令和6年)8月号
2024年8月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル1階)
TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952

ホームページ <https://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp